

令和2年7月24日

南の風 356

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

女子アンダーカテゴリー（U19～15）の課題のまとめです。

萩原氏の話の続きです。海外の選手の特長と日本の選手への提言です。

《海外の選手の特長》

自己主張が上手である。言われたこと以上のことに挑戦しようとする。戦術に関しても自分でリスクを負う。

例えば、セットプレーであっても、自分で1on1でいけると思ったらガンガンいく。「自分でやってやろう」、「目の前の相手をやっつけよう」という気持ちがもの凄く強い。

また国際試合では、ブザービートでやられるケースが非常に多い。海外の選手はショットクロックを常に把握し、「自分が決める」という意識が高い。

このようなことから、海外の選手はここ一番のゲーム（順位決め、メダルがかかったゲーム）にメチャクチャ強い。

《日本の選手への提言》

日本の選手に言いたいことは、黙々とがんばり、一生懸命やることは素晴らしい。さらに、「自分責任でやる」「自分でリスクを負う」という気持ちを持てば、世界でもっと上位にいけると思う。

まとめとして、女子アンダーカテゴリーの目指したいバスケットボールについてです。

- ①ボールマンとのディスタンスを詰めて、プレッシャーをかけ続けるディフェンス。
- ②コンタクトを厭わない選手になる。
- ③タフなシュートを打たせてリバウンドを5人で取る。
- ④5人で守って、5人でリバウンドを取って、5人で走る。まずはファーストブレイク。
- ⑤ボールをシェアしてコートを広く使い、全員がゴール攻める。自分のディフェンスこがヘルプに行ったら、必ず合わせて動く。
- ⑥常にペイントを攻める意識を持つ。
- ⑦オフェンスリバウンドにチャレンジし続ける。

最後に萩原氏は、「日本の170cm以上のサイズのある選手がボールと正対してしっかり守ってほしい。海外の4番ポジション（180～190cm）のトップからのドライブに対応できるようにしたい。」と述べていました。そして、日本選手を目指す選手像として、

◎自分で考え、相手に立ち向かい、味方を鼓舞してタフにチャレンジし続ける選手としていきます。

萩原氏の話聞いて、日本女子U19～15 トップカテゴリーの現状や国際試合を通じて海外の選手の様子を知ることができました。またこのクリニックの冒頭に、『みんなの代表を強くしたい』と力説した氏の願いも伝わってきました。我々U15のカテゴリーで教えている指導者にとって、たいへん示唆に富んだ内容でした。